

# 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案)



令和〇年〇月

はじめに

## 第1章 第2期佐渡市総合戦略の策定にあたって

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1. 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係         | 1 |
| 2. 基本的な考え方                       | 2 |
| 3. 佐渡市総合計画と佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関係 | 3 |
| 4. 計画期間                          | 3 |
| 5. 策定プロセス及び進行管理                  | 4 |

## 第2章 佐渡市の現状と将来の方向性

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 1. 第1期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 | 5 |
| 2. 佐渡市の現状                     | 6 |
| 3. 人口の将来展望                    | 8 |
| 4. 今後の目指すべき将来の方向性             | 9 |

## 第3章 第2期計画における佐渡市の戦略

- |                          |    |
|--------------------------|----|
| 1. 基本方針                  | 11 |
| 2. 施策体系                  | 11 |
| 3. 基本目標                  |    |
| 基本目標1 【しごと】 ○○○・・・       |    |
| 基本目標2 【新しいひとの流れ】 ○○○・・・  |    |
| 基本目標3 【結婚・出産・子育て】 ○○○・・・ |    |
| 基本目標4 【まちづくり】 ○○○・・・     |    |

# 第1章

## はじめに

### 第2期佐渡市総合戦略の策定にあたって

#### 1

#### 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係

国では、急速な人口減少・少子高齢化に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的として、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、2060年に1億人程度の人口を維持するなどの中長期的な展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、まち・ひと・しごと創生法に基づく5か年の目標や施策の基本方針等をまとめた第1期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

国においては、第1期「総合戦略」の成果と課題を検証し、令和元年12月に第2期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。第2期「総合戦略」においては、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、第1期の成果と課題を踏まえて、第1期「総合戦略」の政策体系を見直し、4つの基本目標と2つの横断的な目標の下に取り組むこととしています。

#### 第2期における施策の方向性

基本目標1：稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

- ・地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現
- ・安心して働ける環境の実現

基本目標2：地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

- ・地方への移住・定着の推進
- ・地方とのつながりの構築

基本目標3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・結婚・出産・子育てしやすい環境の整備

基本目標4：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- ・活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保

横断的な目標1：多様な人材の活躍を推進する

- ・地域における Society5.0 の推進
- ・地方創生 SDGs の実現などの持続可能なまちづくり

横断的な目標2：新しい時代の流れを力にする

- ・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
- ・誰もが活躍する地域社会の推進

「まち・ひと・しごと・創生法」第10条では、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するよう努めなければならないこととされており、地方創生の充実・強化に向けて、切れ目ない取組を進めることが求められています。

本市においても、平成27年に「～歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島づくり～佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策、地方創生の実現を目指してきました。この、第1期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証をもとに、これまでの総合戦略における4つの基本目標の枠組みを維持するとともに、より一層の充実・強化を図るため、令和4年度～令和8年度までを計画期間とする第2期計画を策定します。

## 2

## 基本的な考え方

第2期「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策5原則、4つの基本目標などを踏まえるとともに、以下の3つの考え方に基づき策定します。

### ①佐渡市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」に基づく戦略

人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案し、本市における人口の分析を行い、人口問題に関する市民との認識の共有を目指すとともに、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示しています。この人口ビジョンの分析に基づいた政策を展開します。

### ②地域の特色や地域資源を活用した戦略

佐渡は二列の山地が南北に並び、中央に穀倉地帯の国中平野を挟み北と南では独特な地形が残されています。豊かで美しい自然環境に恵まれ、佐渡沖では暖流と寒流が交わる影響で、植物は寒暖両系の植生がみられ四季の変化に富んでいます。また、佐渡の文化は、流入たちがもたらした貴族文化、金山の発展による江戸からの武家文化、商人、船乗りが運んだ町人文化の三つの文化渾然一体となって独自の文化を育んでいきます。さらには、産業では米づくりを中心としており、柿などの果樹栽培なども盛んです。観光資源としては、トキ・金銀山・佐渡おけさ・鬼太鼓・能などがあり、国内外より多くの観光客が訪れています。

これらの地域の特色や地域資源を最大限に生かし、住民に身近な施策を幅広く盛り込んだ施策を展開します。

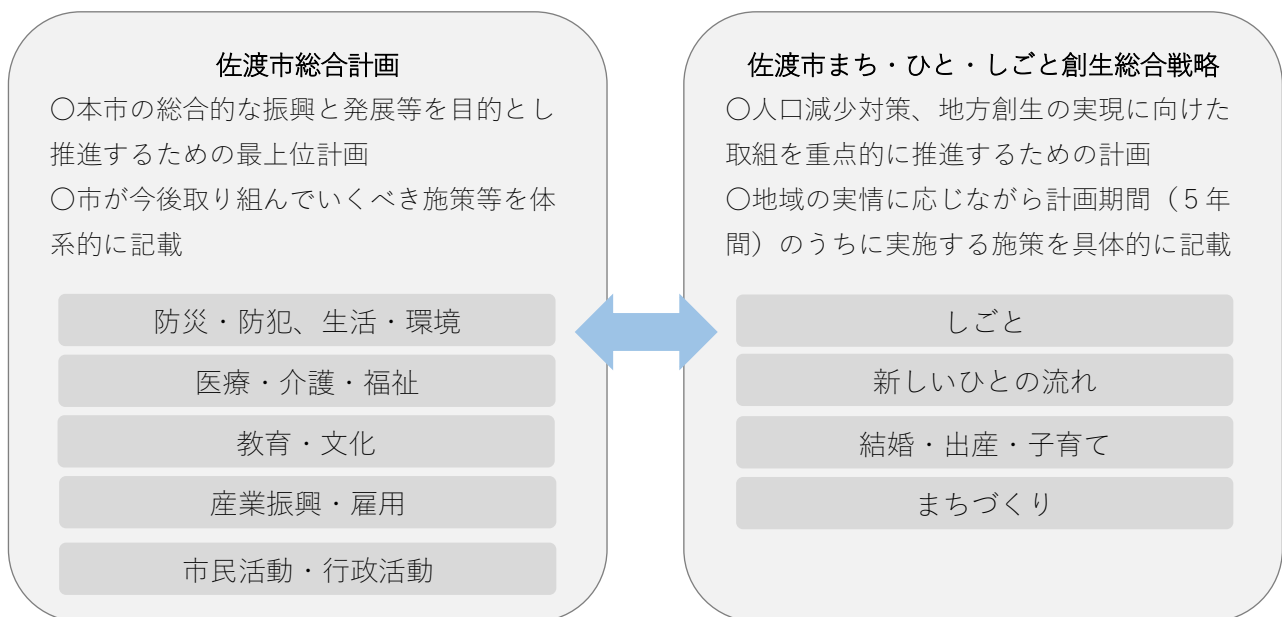
### ③連携による戦略

施策を効果的・効率的に推進していくためには、住民、関係団体、企業等と連携し協力していくことが重要です。幅広い層の住民をはじめ、多様な主体の参画を得るなど、地域の特性に応じた検討プロセスを経るとともに、経済圏における取組なども視野に入れ、行政区域を超えた広域的な連携となるよう施策を展開します。

## 3

### 佐渡市総合計画と佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関係

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少克服・地方創生を目的として、本市の特色や地域資源を最大限に生かした地方創生の取組を積極的・戦略的に進めるため、最上位計画である「佐渡市総合計画」との整合性を図り、一体的な取組となるよう進めています。



## 4

### 計画期間

計画期間は、令和４年度から令和８年度の５年間とします。

### ①推進組織

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を効果的・効率的に推進していくためには、幅広い層からなる住民をはじめ、産官学金労（産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディア）等の参画・協力が必要です。そのため、産官学金労等で構成する「さど未来創造・戦略推進会議」において、意見を求め計画に反映し策定します。

### ②数値目標・重要業績評価指標（KPI）の設定

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略には、盛り込む政策分野ごとに目標年次（5年後）の基本目標を設定するほか、各政策分野の下に盛り込む具体的な施策に対して、客観的な重要業績指標（KPI）を設定します。この目標及び指標は、原則、行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされる便益（アウトカム）に関する数値目標を設定しています。

### ③PDCAサイクルによる効果検証

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を推進するに当たっては、KPIの進捗状況を確認するとともに、「さど未来創造・戦略推進会議」や議会等で検証を実施し、定期的、多角的な評価を行い、評価結果を踏まえて、KPIの修正等の必要な見直しを行っています。

## 第2章

### 佐渡市の現状と将来の方向性

1

#### 第1期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標

第1期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、国の示す取り組むべき政策分野と基本目標は下記のように設定し、各種施策を展開してきました。

##### ①国の政策分野：雇用創出

###### 基本目標1

島の資源を活かし、元気な産業と安定した雇用を創出する。

##### ②国の政策分野：新しい人の流れ

###### 基本目標2

世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する。

##### ③国の政策分野：結婚・出産・子育て

###### 基本目標3

生活しやすい環境を整え、若者の出会いから就業までを島全体で応援する。

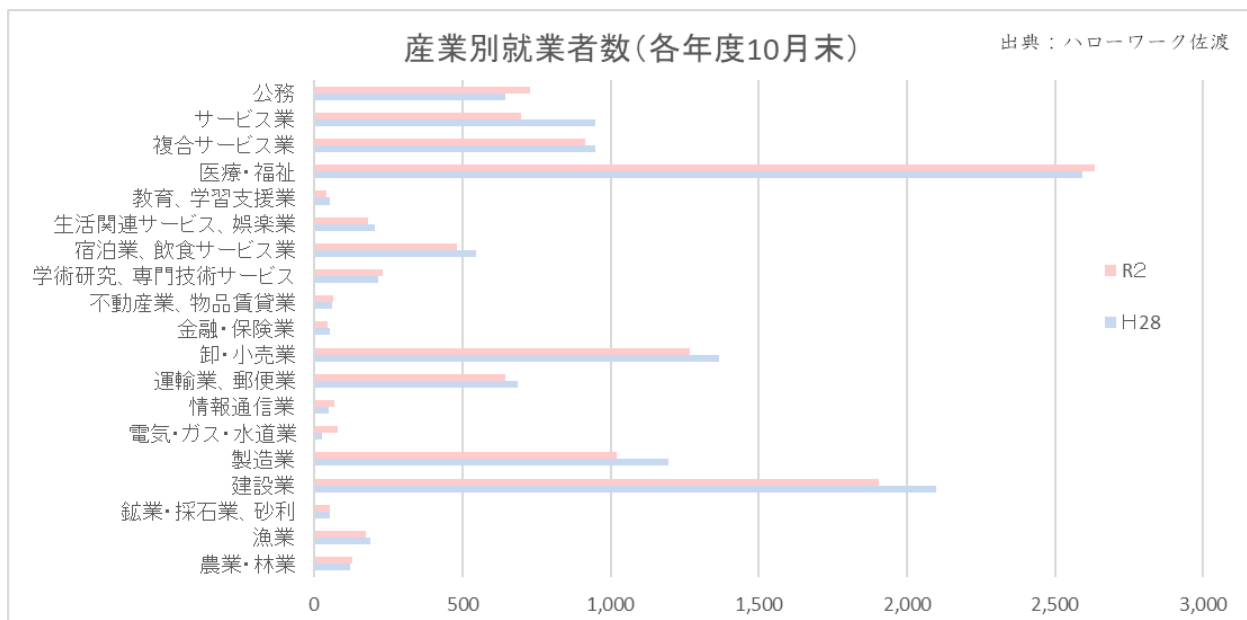
##### ④国の政策分野：地域づくり・暮らしづくり

###### 基本目標4

特色ある持続可能な地域をつくり、島の安全・安心を確保する。

佐渡市の現状は以下のようになっています。

### ①雇用の状況（産業分野別就業者の推移）



### ②出生数・出生率の状況

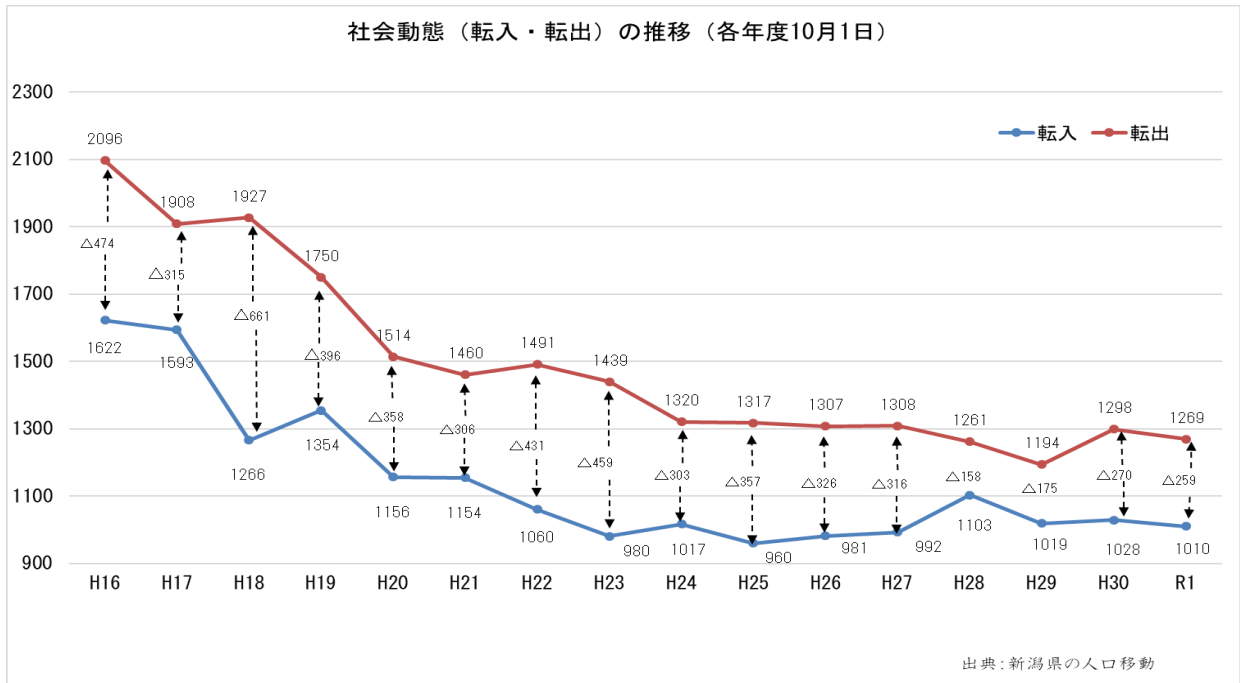
出生数は10年間で約4割減少しており、合計特殊出生率は、国・県と比較して高い数値で推移しているものの、平成29年以降は現状傾向となっています。





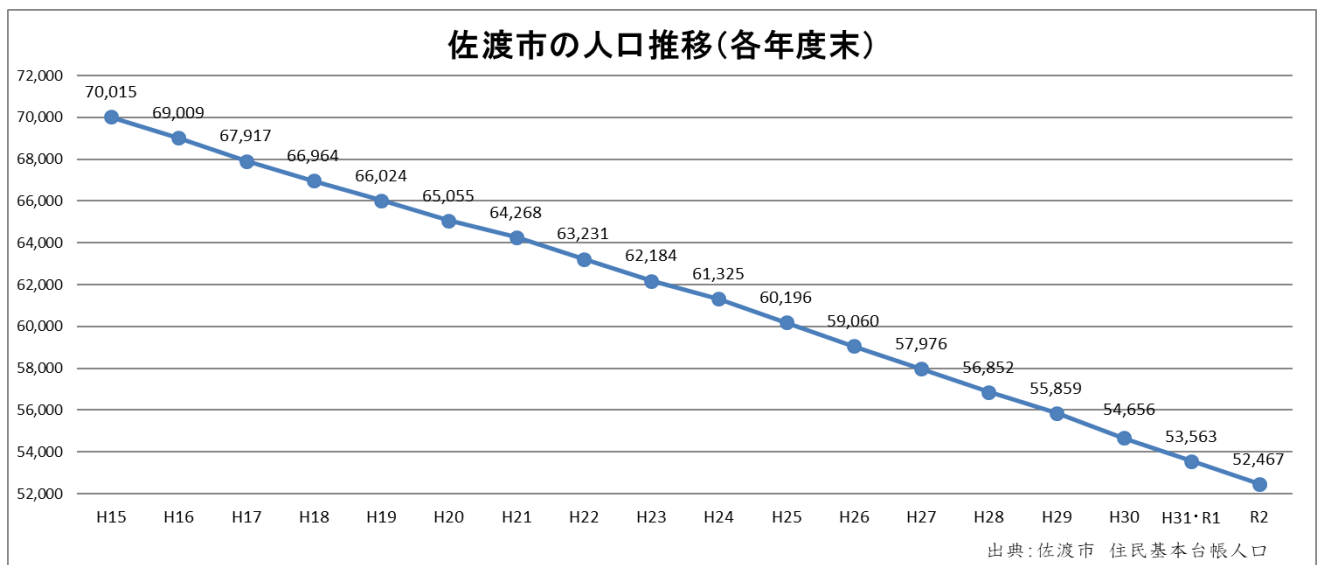
### ③人口移動の状況

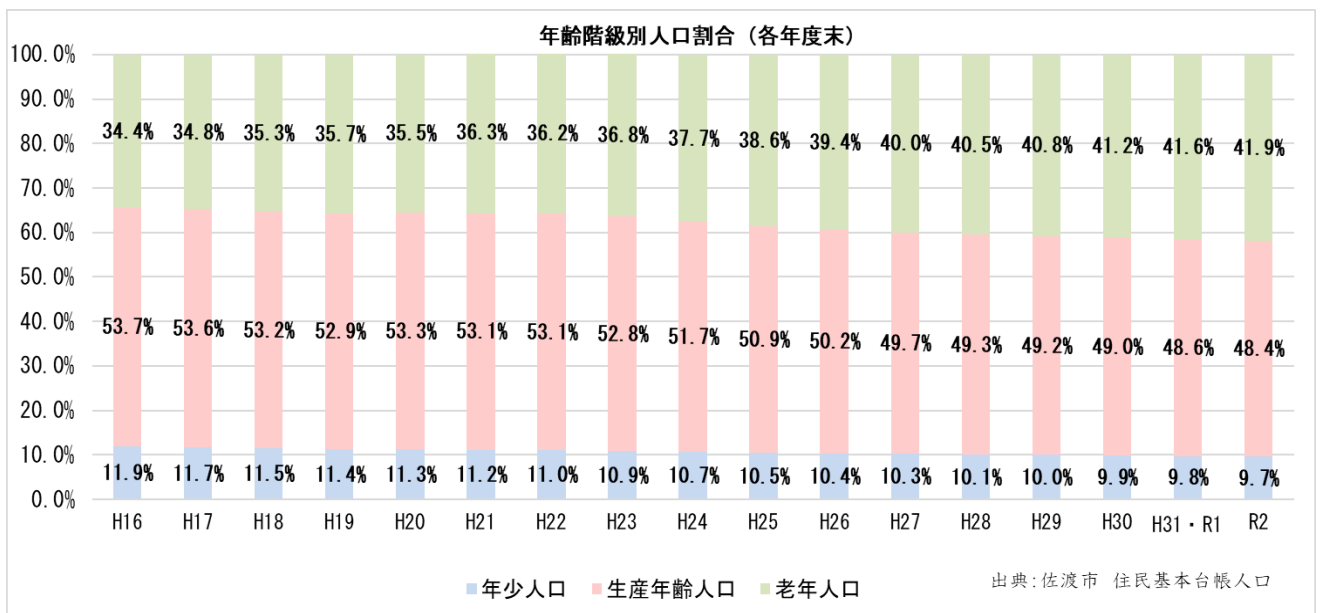
社会動態（転入・転出）においては、転出数は転入数を上回っており、人口減少に伴う転出者の減少によって、その差は減少傾向にあります。



### ③人口構造の状況

令和2年時点で総人口が52,467人であり、合併した平成16年と比較すると約16,000人減少しています。年齢階級別の割合で見ると、年少人口と生産年齢人口の割合は減少しており、平成27年には、生産年齢人口の割合が50%を下回り、一方で老年人口の割合は増加しています。





### 3

## 人口将来展望

平成 27 年国勢調査の結果を基準におこなった、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による将来推計では、令和 42 年の佐渡市の人口が 19,789 人となり、前回の社人研推計人口である 25,146 人よりも約 5 千人程度下回る予測となっています。

さらに、令和 2 年国勢調査における人口は、平成 27 年時点の社人研推計を下回る 51,513 人であり、人口減少がより加速化している状況です。

この推計を踏まえ、佐渡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンでは、人口減少を短期的な取組で食い止めることは不可能であるが、人口減少を抑制するためには、若年層の流出抑制やＵＩターンの促進による移住拡大が大きなポイントとなります。

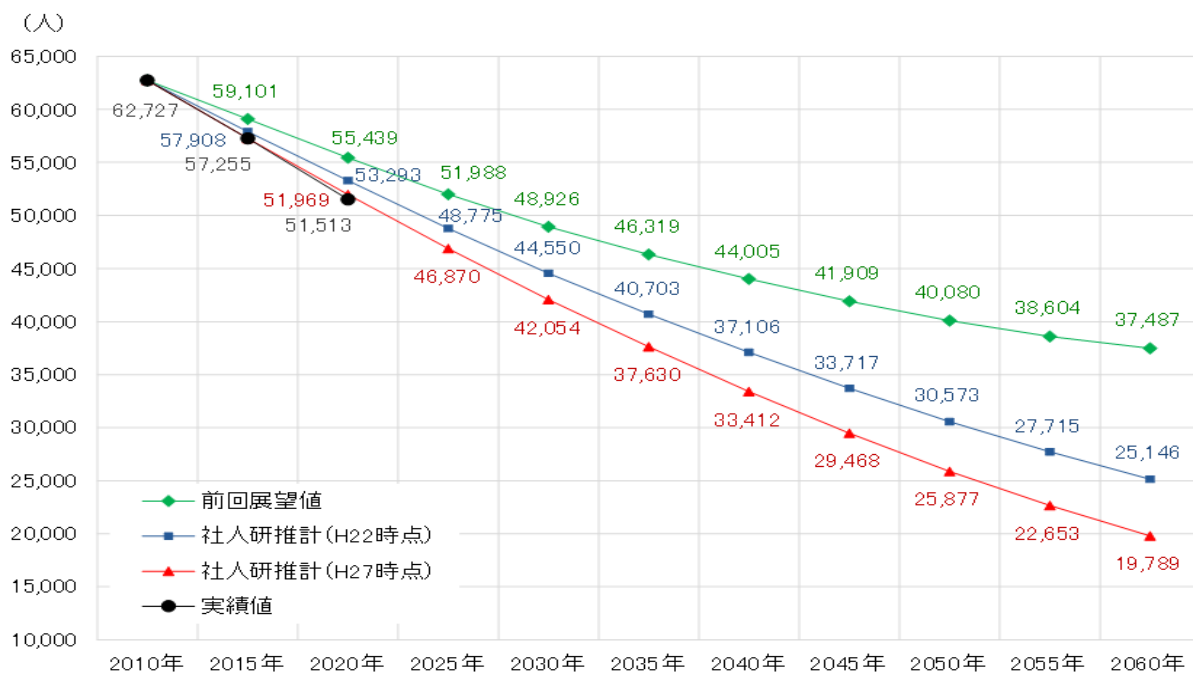
このことから、本市においては、自然減・社会減について以下のことを目指すことで、生産年齢人口の減少率を抑制し、老年人口を下回ることが防ぐとともに、令和 42 年に 32,000 人程度の人口になると展望しています。

（自然増減）

- ・子どもを産み育てやすい環境の整備により、合計特殊出生率を 5 年毎に 0.1 ずつ向上させ、2040 年までに人口置換水準である 2.07 に上昇

（社会増減）

- ・転入を増やすための取り組みにより、2030 年までは毎年 100 人増加、2031 年～2040 年までは毎年 200 人増加、2041 年～2060 年までは毎年 300 人増加



#### 4

#### 今後の目指すべき将来の方向性

現状やこれまでの効果検証を踏まえ、第2期佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、以下の施策に取り組み、人口減少対策及び地方創生の実現を目指します。

##### ①【しごと】地域の特色、地域資源を生かした産業の振興

令和2年度実施した「佐渡市高校生アンケート調査」では、希望している進学・就職等の地域については、半数以上が市外を希望しています。市外での進学・就職を希望する理由としては、「希望する進学先・就職先がない」が約6割となっています。一方で、進学や就職で一度は地元を離れるが「いずれは戻ってきたい」と約4割の方が回答しています。

このことから、“希望する仕事があり安心して働くことができる、起業もできる”環境を創出するとともに、人材の育成、雇用のマッチングなどを進める必要があります。

##### ②【新しいひとの流れ】佐渡への新しいひとの流れをつくる

令和2年度実施した「佐渡市総合計画に関する市民アンケート調査」では、より多くの移住者を佐渡市に受け入れるために重要なこととして、「仕事情報の発信や仲介・斡旋」が約3割と最も多く、次いで「地域の受け入れ体制の構築」が約2割であることがわかりました。

このことから、お試し住宅の柔軟な活用やいつでも佐渡に住むことができる体制の整備を進めるとともに、インキュベーションセンターの構築による企業誘致や雇用と住居を核に、医療・子育て・生活などの一体的な情報発信とサービスの確保が必要です。

③【結婚・出産・子育て】結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

令和２年度実施した「子育て世代アンケート調査」では、「理想とする子ども人数」は３人であるのに対し、実際に産む子どもの人数は２人が最も多く、１人の開きがあることがわかりました。その要因としては、「将来の教育費用等に対する経済的不安」が約４割と高くなっています。

また、子育て環境では家事と育児の役割分担について、「自分が主で、配偶者が一部を担う」、「自分が大半を担う」が半数以上となっており、理想としては「自分と配偶者が同程度担う」と約７割の方が回答しています。子育て支援では、「子どもの居場所づくり」やコミュニティづくりといった「周辺環境」が求められていることがわかりました。

このことから、将来に希望を持ち、理想とする子どもの数が持てるよう３子目以降の支援制度など通じて経済的負担を軽減していくとともに、保育所、家庭、企業等の子育て支援を再構築し、男女ともに家事、育児と仕事が両立できるよう仕事と生活の調和がとれた環境づくりを進める必要があります。

④【まちづくり】ひとが集い、賑わい、安心して暮らせる持続可能なまちづくり

令和２年度実施した「佐渡市総合計画に関する市民アンケート調査」では、まちづくりへの市民参加が実現していると感じていますかの問いに、「どちらかといえば実現していない」が約３割、「実現していない」が約２割であることがわかりました。

このことから、市民を巻き込んだ行政運営、地域での話し合い、地域の将来像を描けるよう、「地域に出て地域で話す」、「地域づくりを協議できる体制」をつくり、人口の変化とそれに伴う産業構造の変化に対応したまちづくりを市民、企業、関係団体等が連携して進めていくことが一層求められています。

# 第3章

## 第2期計画における佐渡市の戦略

### 1

### 基本方針

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、総合計画の基本理念である「歴史と文化が薫り 人と自然が共生できる持続可能な島」と一体的に取り組み、子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと輝ける島を目指し、人口減少対策と地方創生の実現に向けた施策を実施していきます。

### 2

### 施策体系

佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、4つの基本目標と、基本目標を実現するための施策別の取組、各施策に係る具体的な取組により成り立っています。

基本目標	施策別の取組	取組
1. しごと	<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	各施策に係る具体的な取組
2. 新しいひとの流れ	<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	
3. 結婚・出産・子育て	<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	
4. まちづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	